

[成果情報名]フキノトウ専用フキ新品種「あわ春香(はるか)」

[要約] 「あわ春香」はフキノトウの収穫を目的として選抜育成した晩生のフキ品種であり、本品種は12月から3月下旬までの長期間にわたり収穫が可能で、収量、品質に優れる。

[キーワード]フキ、品種、晩生、フキノトウ

[担当]徳島農総セ農研・中山間担当

[代表連絡先]電話 0883-72-0239

[区分]近畿中国四国農業・野菜

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

フキノトウは春を告げる山菜として人気が高い品目であり、中山間地域における振興品目として産地化に取り組みられている。しかし現状は山採りが多く形質が不揃いである一方、「愛知早生」等栽培種のフキノトウは30g程度と超大型で形状も劣り、収穫期間はいずれも1月～2月と短い。

このため、10～20gでよく締まり3月以降でも収穫が可能な、京阪神市場での評価が高いフキノトウ収穫専用晩生品種の育成を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「あわ春香」は、徳島県内の野生フキの中から選抜育成した晩生品種である。
2. フキノトウ収穫時期は、他品種同様12月から可能なうえ、抽だいが遅い(3月16日の開苞率5.8%)ため、3月下旬まで長期間の収穫が可能である(表1)。
3. フキノトウは野生フキとしては大型で、1個重は8g以上が62%を占める(図1)。
4. フキノトウ着生数は1株あたり9.9個と多い。収量は、定植翌年、翌々年とも従来品種「みさと」を大きく上回る(表2)。
5. フキノトウ品質は、卵型で締まりが良く(図2)、苞葉数が47枚と多いため調製に有利である(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培は徳島県内に限る。
2. うどんこ病、葉枯れ病は「みさと」に比べ発生が少ない。
3. 本品種は2010年3月8日に品種登録を出願し、同年6月14日に出願公表された。

[具体的データ]

表1 フキノトウ開苞率の推移

(単位: %)

品種	2009年調査月日					
	1月21日	2月6日	2月12日	2月16日	3月9日	3月16日
愛知早生	33.0		100.0			
みさと	1.1	35.0	55.2	68.8		
あわ春香	0.0		0.3		3.4	5.8

注)開苞率とは苞が開き頭花が一部でも見えるフキノトウの個数割合
三好分場標高205mほ場で2008.5定植、各品種100株調査、空欄はデータなし

表2 フキノトウの特性及び収量等

品 種	2008年5月定植株				調査日	2006年5月定植株		調査日
	重量 (g/個)	長さ (mm)	苞葉数 (枚)	収量 (kg/10a)		収量 (個/株)	(kg/10a)	
あわ春香	19.1	59.6	47.0	368.9	3月9日	9.9	367.7	3月6日
みさと	9.3	53.6	20.0	261.3	2月6日	6.3	178.0	2月8日

注)三好分場ほ場で畦幅120×株間20cm×2条植え、試験規模:1区 4.8㎡×3反復
調査日は、各品種の収穫限界(開苞初期)における1回収穫

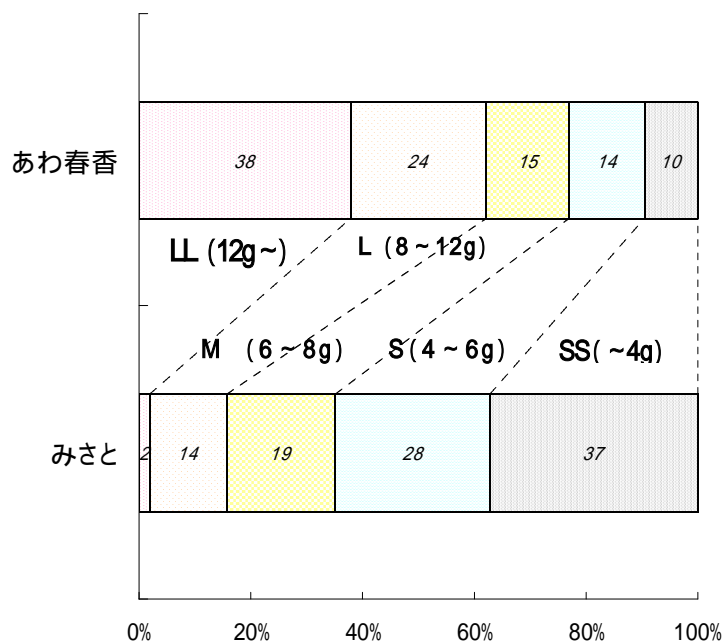


図1 フキノトウの重さ別個数比

2008.5定植2010.1~2月(みさと)、2~3月(あわ春香)各4回収穫



図2 「あわ春香」100g 入りパック
(2010.1.20 収穫)

(高木一文)

[その他]

研究課題名: 収益性の高いフキノトウ栽培技術の確立

: 中山間地域へ朗報「フキ徳島2号」の栽培技術確立

予算区分: 県単

研究期間: 2005 ~ 2010 年度

研究担当者: 高木一文、小角順一、武内徹郎、三木健司

発表論文等: 三木ら「あわ春香」品種登録出願 2010年3月8日(第24668号)